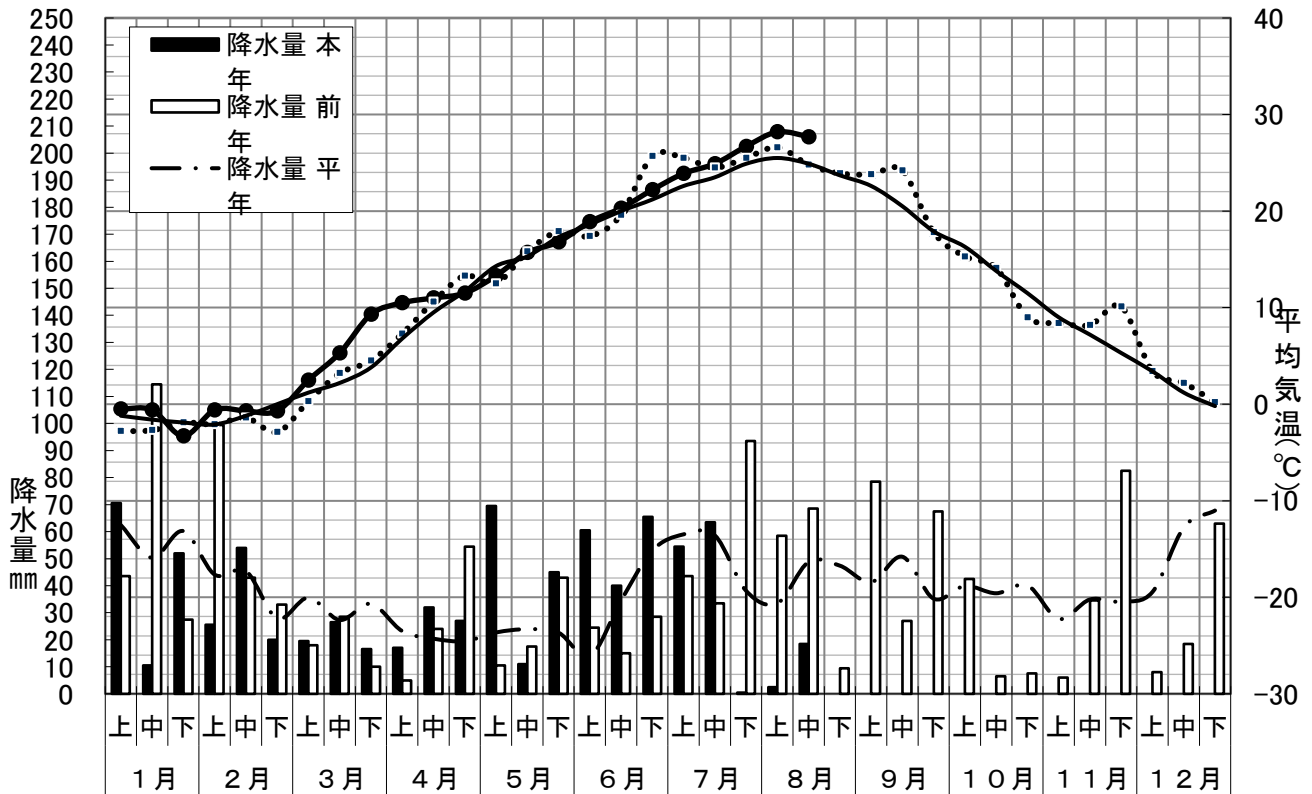


農作物生育概況

令和5年8月25日現在



【作物】

<水 稲>

7月下旬からの高温のため、生育は前進した。飯山市常盤（標高315m）の定点の出穂期は、あきたこまち7月27日、金紋錦7月29日だった。コシヒカリは8月4日、風さやかが8月5日と平年よりも4～5日早くなっている。

積算気温による成熟期予測では、8月5日出穂のコシヒカリ場合、9月12日となっている。出穂後の最高気温高く、多日照であるため、胴割れ粒が発生しやすい条件となっている。

いもち病は、一部チッソ量が多いほ場などでは葉いもちの発生が見られたが、穂いもちの発生はほとんどない。一部の品種ではもみ枯細菌病による穂枯れが見られる。

イナゴの発生が多く、葉が食害を受けているほか、斑点米カメムシ類の発生も多い傾向である。クサネム、ホソバヒメミソハギ等の雑草が散見される。

<そ ば>

播種は平年並みで、8月上旬が中心だった。降雨が少なく、湿害はないものの播種が遅いものでは乾燥による出芽不良が見られる。

【果 樹】

<りんご>

「シナノリップ」の収穫は8月の盆頃がピークとなったが、高温干ばつの影響で果肉先熟傾向となり、着色には課題が残った。現在、「つがる」の収穫が始まっているが、着色が進まない園地が多い。また、「シナノリップ」、「つがる」では過熟による果肉褐変も見られている。

地区や品種、凍霜害の有無を問わず、全般に樹勢が強い傾向で、新梢停止後の二次伸長も散見される。病虫害は全般に多い傾向で、特に褐斑病については、新梢基部葉の落葉が見られ始めた園地もある。

<ぶどう>

露地の「シャインマスカット」の果粒軟化は7月20日頃から確認され、「クイーンルージュ®」の着色始めは早いところで7月25日頃から確認された。両品種とも園地や樹による成熟の差が見られている。特に「クイーンルージュ®」の着色進度の差が大きく、着色が進まない園地では新梢管理に加え、除袋や反射資材の敷設などの対策がされている。また、果粒肥大が良好な園地では果頂部裂果が8月半ば頃から見られている。

現在も夜温が高めで推移しており、糖度が高く、酸抜けが進んでいる園もあることから、「ナガノパープル」等については、平年よりも1週間程度早く収穫が始まっている。

酸度の低下により、晩腐病の発生が確認され始めており、収穫のタイミングに注意が必要である。

<核果類>

ももは「川中島白桃」の収穫期となっている。降雨がほとんどなく、晴天が続いていることから糖度、着色ともに良好で、果実肥大がよかったことから大玉傾向である。

プラムは「太陽」の収穫後半となっており、月末からは「秋姫」の収穫が始まる予定。スモモヒメシクイの誘殺数が増えており、地域や園により、被害が懸念される。

【野 菜】

<アスパラガス>

露地・半促成ともに、夏芽収穫中。乾燥によりハウスを中心にハダニの発生が増えている。露地では茎枯病の発生がやや多い。

<白ネギ>

定植後3~4か月、生育はほぼ順調。早出しを狙った4月植を中心に7月中旬から葉枯病が多くみられる。

<きゅうり>

露地は、降雨がないため収穫量が減ってきている。

【花 き】

<ソリダゴ>

露地作型（4月台刈り）の収穫最盛期（1~2番花）。草丈、着色等品質は良好。露地の2度切り作型では電照を行っている。

<コギク・アスター>

お盆前に7~8割は出荷されたが、高温抑制等により切れなかったものもあり、下旬に直売所を中心に出荷されている。病害の発生は少なく、着色も良好だが、短径花がやや多く、アザミウマ類、ハダニ類、カメムシ類の発生もやや多い。

<その他品目>

シンフォリカルポス、ワレモコウ、ツルウメモドキ、フジバカマ、アメリカテマリシモツケ、ススキ等、今後切花が始まる。